

TOSHIMA UNDER HIGHWAY DESIGN COMPETITION

『capillary : 毛細血管』

分断されている「まち」と「高速道路」に新たな関係性をつくる。都市生活者の健康増進のための新たなインフラを整備し、単なる構造物としての高速道路を、ヒトが使うインフラとして再定義する。高速道路構造物に「自転車道」および「歩行者専用道路」を計画し、対象エリアに周回コースを整備する。ランナー等の拠点は「豊島区池袋スポーツセンター」と民間建物の一部を活用する。さらに、高速道路を走る自動車、自転車、ランナー、歩行者等の速度の異なるネットワークを可視化しデザインすることで、単なる工作物ではなく、インフラのダイナミズムを体験あるいは体現できるような施設を整備する。この新たなインフラで起こるアクティビティや環境デザインによるダイナミズムを契機に、都市生活者の健康増進はもとより、「まち」のエネルギーがこの小さなネットワークを介してエリア全体に広がっていく。

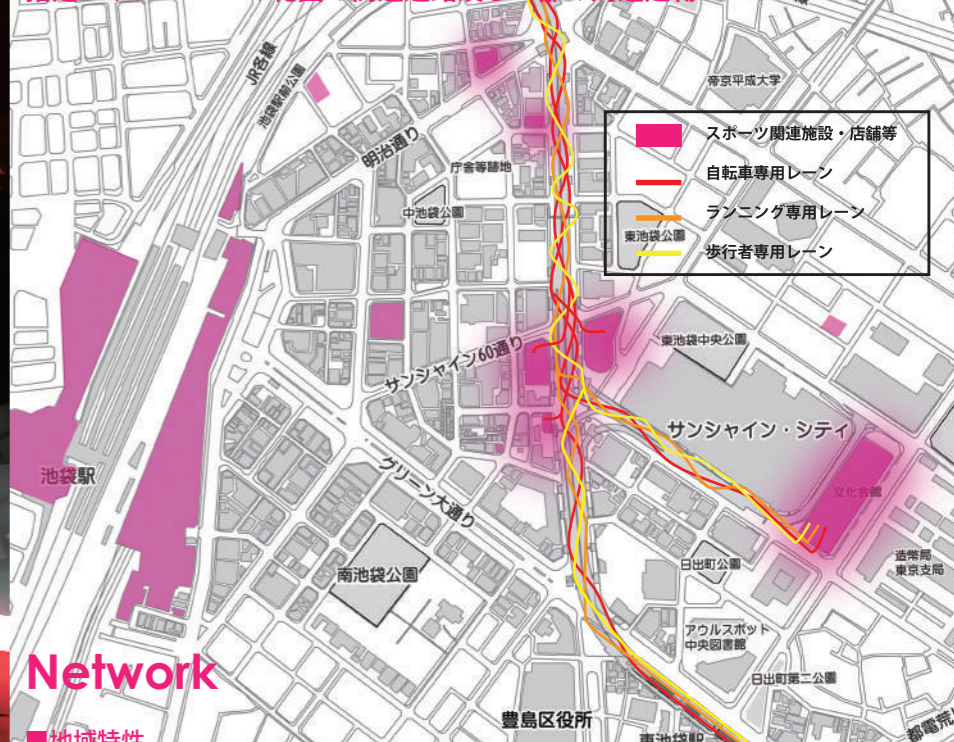


“Capillary”

Sports
Speed
edge
infrastructure

Site

■対象エリア
指定エリアA～Bの範囲の高速道路及び一部の周辺建物

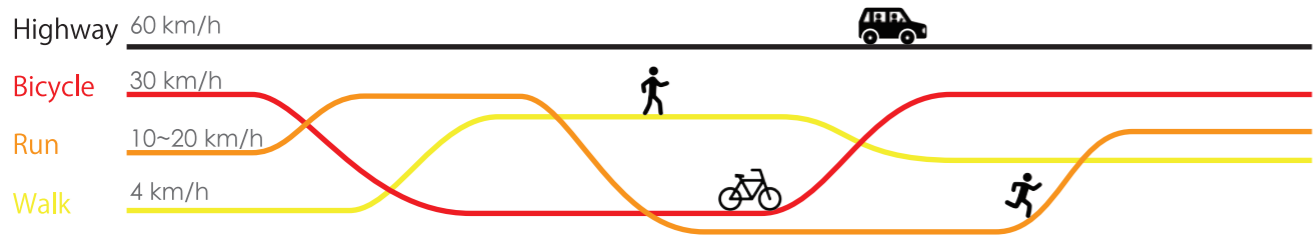


Network

■地域特性
対象エリアは池袋駅から東側の徒歩圏に位置するが、高速道路の出入口や高速バス乗場等はなく、まちと高速道路に機能的な関係性はない。このエリアは幹線道路によるまちの分断と構造物の景観上の印象から、まちの境界部（エッジ）として認識される。一方、エリア周辺では商業施設が集積が見られる。特に、スクエアー・ダイニング、自転車、大規模なスポーツショップ等のスポーツ関連の店舗が多く存在する。また、エリア北側のJR線を越えた場所には「豊島区池袋スポーツセンター」があり、ランなど会社帰りのサラリーマンで賑わっている。他に格闘技ジム等もあり、対象エリアにおいては「スポーツ」などの目的性高いアクティビティの潜在的なニーズがあると考えられる。

Diagram

自動車、自転車、ランニング、歩行、それぞれの速度をデザインする。



Design

■都市を紡ぐ
高速道路の高架に「自転車専用レーン」、「ランニング専用レーン」、「歩行者専用レーン」が絡み合いながら、都市の隙間を縫うように構成される。それは毛細血管のように縦横無尽に張り巡らされ、分断された都市を緩やかに繋ぐ。



ガラス壁に囲まれたレーンはそれぞれお互いの存在を感じられ、夜間にはアクティビティによって光の帯が街を彩る。

Bicycle



Run



Walk



System

■事業スキーム

高速道路の構造物に設置する自転車道および歩行者専用道路は行政が高速道路と協議のうえ整備する。昇降機能を伴う拠点施設は周辺で建物を所有しインフラとの接続が可能な民間建物内に設ける。建物を所有している民間事業者は指定管理者としてインフラを含めた施設の運営管理を行う。

	民間建物内施設	自転車道・歩行者専用道路
施設整備費	民間事業者・行政	行政
管理費	民間事業者・行政	行政
管理	民間事業者（民間指定管理者） （右記指定管理者と同一事業者）	民間指定管理者・高速道路
財産	民間事業者・行政	行政・高速道路

